

## 公共施設を考えるワークショップにWGメンバーが参加！

町役場などの公共施設を考える第1回ワークショップが、5月13日に開催されました。ワークショップには、まちづくりワーキンググループからも昨年度の公共施設検討チームメンバーを中心に10名が参加しています。

昨年度までのWGの意見などを踏まえて作られた、施設の計画方針案の説明のあと、5つのグループごとに「こんな施設になるといいな！こんな空間があったらいいな！」をテーマに、役場と保健センター、生涯学習センターなど、施設間のつながりや機能について活発な話し合いがされました。その後、全員でほかのグループの意見を見て回り、全体の意見を共有しました。

5月23日には、学識者、町民代表8名（WGから2名）、町職員など関係者が一堂に会して、第1回公共施設町民会議が開催されました。ここでワークショップでの意見をもとに、施設の方向性を確認・決定していきます。秋ごろの施設の基本計画策定を目指し、今後もワークショップと会議を重ねていきます。



## 第1回まち活講演会

### 「もっとまちが好きになる ～シビックプライドを育てよう～」

講師：伊藤 香織氏（東京理科大学理工学部建築学科准教授）

#### 講演概要

「シビックプライド」とは、まちに対する住民の誇り・愛着のことを言い、日本語の郷土愛という言葉によく似ていますが、まちをよりよい場所にするための当事者意識が伴う点で、少しニュアンスが異なります。

まちへの誇りを育てるには「まち」と「わたし」との関係を構築していくことが重要です。

海外に行くと「YOU ARE YOUR CITY」というまちの美化キャンペーンの看板があります。誰もが自分の家にポイ捨てはしないように、「あなた自身があなたのまちである」という意識を持ち、自分のまちにポイ捨てをしないように呼びかけています。

まちを好きになるには、それぞれ段階があり、自分の意識レベルに応じて参加するとよいでしょう。「①まちを知る」⇒「②まちに参加する」⇒「③まちに関与する」⇒「④まちを使う」の段階に応じて、関わり方もそれぞれ違います。

「まち」と「わたし」の関係を構築するには、まちを妄想する力とそれを実現する力を働かせ、「みんなで共有すること」が重要となります。自分のやりたいこと、好きなことをまちにつなげていくことがシビックプライドを育てていくと思います。



## 事例紹介

### ①まちを知る

- ・「オープンハウスロンドン（イギリス・ロンドン市）」
- ・「小布施町オープンガーデン（長野県小布施町）」  
古い街並みに合う整備をしており、その整備過程の中で市民の意識が変化し、「外はみんなのもの、内は自分のもの」という共通認識が芽生えた。オープンガーデンで、花や植栽を町民で管理している。

### ②まちに参加する

- ・「文化による都市再生（イギリス・ニューカッスル市とゲーツヘッド市）」  
美術館や音楽ホール等の箱ものを作って終わりではなく、企画展、ワークショップ、教育プログラムの充実や市民が自由に使える空間の整備をし、365日多彩に楽しめるまちとして親しまれている。

### ③まちに関与する

- ・「富山市LRT（富山県富山市）」
- ・「パイオニア・コートハウス・スクエア（アメリカ・ポートランド市）」  
市民の居間である広場に公園整備時にお金を出してくれた人の名前をタイルに刻み、自分がまちづくりに関わっている意識が働くデザインが施されている。

### ④まちを使う

- ・「上古町商店街（新潟県新潟市）」 ・「リアカーゴ（広島県尾道市）」  
尾道大好きという若者が中心となって、移動式の屋台を10台ほど組み、休日ごとに商工会議所記念館横の空き地や駅前広場などで、露天商の活動を行っている。

### その他：まちを妄想する

- ・「仏生山まちぐるみ旅館（香川県高松市）」  
まちの中に旅館の機能である飲食店・浴場・物販店・客室などが点在し、まち全体を一つの旅館に見立てたネットワークでつないでいくプロジェクト。
- ・「アートでまちづくり（徳島県神山町）」  
過疎の進んだ町に芸術家を招へいし、まちに定住しながら作品を残してもらい、地域の魅力向上につなげるプログラムを実施。芸術をツールとした好循環により、人が人を呼び、創造的で面白い人たちが集まる地域になっている。



講演会終了後、復興まちづくり情報交流館に会場を移し「まちカフェ」と題して、伊藤先生との懇親会を開催しました（なんと町長も飛び入り参加！）。シビックプライドについてはもちろん、女川の印象について、伊藤先生の被災地支援活動、子どものまちづくりなど、活発な意見交換が行われました。



### Facebook を開設！

女川町の協働まちづくりや地域主体の活動に関する情報発信、意見交換の場として『まち活』のフェイスブックコミュニティを開設しました！「いいね」を押して女川のまち活をみんなで発信していきましょう！「まち活@おながわ」で検索、または <https://www.facebook.com/machikatsuonagawa> にアクセスを！

### 《まちカフェをご利用ください！》

まちカフェは、常設のカフェと違い、復興まちづくりやコミュニティづくりについてみんなで話したい時に設置される「対話の場」です。町内外で「まち活」を実践されている方を囲んでお話ししたり、特定の課題についてワークショップや勉強会を行います。

復興まちづくり情報交流館を拠点としますが、お店・学校・集会所・公園、どこにでも出張します。必要な機材と備品、お茶とお菓子をご用意し、ワークショップであれば進行役、勉強会であれば専門家派遣についてもお相談に応じます。

開催のご提案、ゲストやテーマのリクエスト等、なんでもお問い合わせください。

◆問合せ先 女川町まちづくり推進協議会/ワーキンググループ事務局

役場復興推進課復興調整係 ☎54-3131 内線 239